

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	23097
課題名	高齢膠芽腫患者の転帰別の特徴
研究期間	実施許可日 ～ 2026年 3月 31日
研究の対象	旭川医科大学病院の脳神経外科で2021年4月から2023年3月までに腫瘍摘出術および、放射線療法と化学療法が行われ、かつ、術前からリハビリテーション科より理学療法が処方された65歳以上の患者さん。
利用する試料・情報の種類	<p>■診療情報（詳細：年齢、性別、身長、体重、BMI (Body Mass Index)、転帰先（自宅、施設、転院）、入院前の生活場所（自宅、施設）、放射線/化学療法の実施内容、在院日数、リハビリテーション実施日数、術後合併症の有無、家族構成、同居家族の情報、病変部位、併存症、リハビリテーション開始時・終了時の日常生活動作能力（FIM: Functional Independence Measure）など</p> <p><input type="checkbox"/>手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ）</p> <p><input type="checkbox"/>血液</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>■利用予定日（開始日2023年11月1日）</p>
研究の意義、目的	<p>世界保健機関は脳腫瘍患者を悪性度により grade 1 から 4 に分類しており、膠芽腫（こうがしゅ）は最も悪性度が高い grade 4 に分類されます。神経膠腫を代表する悪性脳腫瘍はいまだ治療の経過が良くないものが多く、治療成績の評価として生存期間が重要視されています。また、それと同時に生活の質を維持向上することが求められており、リハビリテーションへの期待も大きいです。しかしながら実際の臨床場面では限られた時間の中で、身体機能や日常生活の動作が十分に改善せず、元の生活に戻れない症例を経験します。本邦では脳腫瘍に対するリハビリテーションの効果を示す報告は少なく、また海外でも対象が平均年齢50歳代のものが多く、高齢者に限った報告は少ない状況です。高齢者の場合、元々の身体機能や認知機能が低い場合も多く、併存症の割合も高いです。そのため脳腫瘍患者さんの退院時の特徴を把握することは、退院後を予想立てたプランニングに役立ち、脳腫瘍の中でも治療の経過が良くない膠芽腫患者さんの余生をより有意義なものとすることに貢献すると考えています。本研究は、高齢の膠芽腫患者さんの退院時の特徴を調査することを目的とします。</p>
研究の方法	<p>対象は2021年4月から2023年3月までの間に旭川医科大学病院の脳神経外科病棟に入院し、腫瘍摘出術および、放射線療法と化学療法が行われ、かつ、術前からリハビリテーション科より理学療法が処方された65歳以上の方です。診療録を見返し、年齢や性別、転帰先、家族構成、日常生活動作能力の経過などといった項目を調査します。そしてリハビリテーションを開始した時と終了した時の日常生活動作能力の変化や、<u>退院時</u>に及ぼす影響を調査します。</p>
試料・情報の管理に	旭川医科大学 学長 西川 祐司

ついて責任を有する者	
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所在地（住所）：旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 電話（直通）：0166-69-3550 研究責任者：旭川医科大学病院リハビリテーション部 理学療法士 村岡法彦</p>